

種名	<p><u>ムナグロ</u></p> <p><u>Pluvialis dominica</u></p> 													
分類	チドリ目 チドリ科													
特徴	夏羽では、上面が黄褐色と黒の斑で下面が黒いチドリ類。ユーラシアと北米大陸の寒帯で繁殖し、日本には旅鳥として春秋に渡来する。西南日本では越冬する個体もあり、小笠原諸島や沖縄諸島では普通に越冬している。													
生活	ダイゼンよりはやや乾いた環境を好み、干潟や砂浜、水田やハス田に渡来するほか、畑、草地、川原などでもよく見られる。数十羽の群れで行動していることが多いが、春の渡りの時期には近づき過ぎた個体同士の間で争いがよく見られる。越冬地では公園や庭の芝生、畑などに多い。採餌方法は立ち止まって餌を探し、駆け寄って捕まえることを繰り返す。餌は主に動物質で昆虫類が多く、地上や草の間の虫、飛んでいる虫などを巧みに捕まえる。干潟では甲殻類やゴカイなどもよく食べる。草の実もついばむことがある。													
声	飛翔中は「ピョーピョー」とか「ピョピョー」「キピョキピョ」などと聞かれる声を出す。また「チュチュイー」という、細く清らかな声で鳴くこともある。													
見分け方	夏羽、冬羽ともダイゼンに似るが、ムナグロの背面は常に黄褐色と黒の斑模様をしている。													
時期：通過地 ：越冬地	(月)	-	-	-	4	5	-	-	8	9	10	-	-	
その他	産卵期：ユーラシア大陸 全長(L)24cm 翼開長(W)50cm													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														